

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（ 杉の子特別支援学校 石薬師分校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす
(2)	育みたい 生徒像	・ 自立と社会参画をめざし、主体的に取り組む子ども ・ 自己肯定感や他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども
	ありたい 教職員像	・ 豊かな人間性と高い人権感覚を有し、いじめや体罰を許さず、学校の課題に情熱をもって粘り強く取り組むことで生徒のみならず、地域や保護者からも信頼される教職員 ・ 生徒の障がいの様子に応じて、入学前から卒業後までの一貫した指導・支援に保護者と連携して主体的に実践できる教職員 ・ 他の教職員と協調して学校の抱える様々な課題の解決に向けて、積極的に取り組むとともに地域の各学校・関係機関との信頼関係を構築できる教職員 ・ 防災対策や防災・防犯教育に積極的に取り組み、生徒が安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教職員 ・ 知的障がい教育に関わる実践研究に真摯に取り組む、生徒の成長を保護者と共に喜び合える教職員 ・ コンプライアンス意識を高く持ち、生徒、保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 ・ 自立と社会参画に向けて、様々な体験的な学習を経験して、卒業後の生活に必要な力や主体性を育んでほしい。 ・ 一人ひとりが活かされる仲間づくりを推進してほしい。 〈保護者〉 ・ 生徒一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参画に向けた教育と進路実現を推進してほしい。 ・ 安心・安全な学習環境を維持継続してほしい。 〈地域の学校・関係機関〉 ・ 地域における特別支援教育の充実・推進に向け、センター的機能を発揮してほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 ＜保護者＞ ・ 生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育の実施 ＜地域の学校＞ ・ 交流教育を通して共生社会の実現に向けた教育の推進と地域の特別支援教育のセンター的機能の発揮 ＜地域の関係機関(企業・福祉施設等)＞ ・ 情報提供や障がい者理解に向けた支援の実施 ＜地域社会＞ ・ 教育活動の公開と情報の提供 ＜石薬師高校＞ ・ 施設を共有する高等学校の教育に対する理解	連携する相手への要望・期待 ＜保護者＞ ・ 目指す学校づくりへの理解と協力 ＜地域の学校＞ ・ 交流教育を通じた様々な活動や体験の協力 ＜地域の関係機関(企業・福祉施設等)＞ ・ 現場実習の受け入れ及び就労実現 ・ 職業の授業の情報やノウハウの提供 ・ 放課後の施設利用や卒業後の入所 ・ 就労や施設利用に係る情報の提供 ＜地域社会＞ ・ 本校の教育活動の理解と協力 ＜石薬師高校＞ ・ 施設を共有する特別支援学校の生徒理解

(3) 前年度の学校関係者評価等		・教職員満足度調査については「改善すべき点があればすぐに提案できる雰囲気がある」という項目のポイントが低い。「改善提案活動」など毎月教職員から改善を提案しやすいような仕組みづくりや、改善できるものから積極的に取り組んでいく仕組みを検討する必要がある。 ・交流及び共同学習については、高等学校と併設している特別支援学校は他にはない特色であり、社会に出た際にいろいろな人と接する準備となると考えられる。共生社会の実現をめざし、引き続き共同学習のメリットを追求した教育活動を進める必要がある。 ・学校見学を通して、生徒が作った製品を知った。地域との共生という点においても、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、地域の催しに積極的に作品や製品を出展し、学校の存在をアピールし、多くの人に特別支援学校のことを理解してもらう取組を推進する必要がある。引き続き、地域の学校であることを意識した開かれた教育活動を実践してほしい。 ・小学校、中学校においても、学校間交流や居住地校交流の取組を通じてさまざまなことを学んでいる。今後、中学部の移転は、今後の取組に関わってくる。具体的な内容が定まってきたら、情報交換する場を設定し、移転後の教育活動についての情報交換の場を設定してほしい。
(4) 現状と課題	教育活動	・令和5年度の知的中学部の石薬師分校への移転を踏まえて、生徒がスムーズに新しい環境に慣れるための取組を行う必要がある。 ・生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導支援を行う必要がある。新しい学習指導要領に対応するとともに、杉の子の本校と連携した一貫性のある教育課程を編成し、目標設定と評価が一体となる教育実践を進める。さらに、キャリア教育の視点を踏まえ、卒業後の生活を見通した系統的な学習を推進することが課題である。そのため、家庭や関係機関との連携強化、専門性向上の研修、授業研究、事例検討・ケース会議等の充実に努める必要がある。 ・自立と社会参画を目指す教育の充実に向け、生徒の3年間の学校生活を見通し、現場実習等で得られた成果と課題も踏まえて取組が進められるように作業学習の充実を図っていく必要がある。 ・保護者からも人権教育、命を大切にする教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組、交流及び共同学習の充実が求められており、系統的・計画的・組織的な実践を進める。いじめを許さず、自己肯定感を高める取組をさらに推進していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症への対応の一つであるオンライン教育に関して機器の整備や実施に向けた研修などを進め、生徒の学びの継続を図る必要がある。 ・加速化する教育の情報化の対応に向け、ICT機器の活用推進計画を作成し、活用事例の蓄積を行い、全教職員でICT機器の活用を進めていく必要がある。
	学校運営等	・令和5年度の知的中学部の石薬師分校への移転を踏まえて、教職員が協力して円滑な移転を行うため、計画的に取組を進める必要がある。 ・個々の教職員が不祥事を他人事とせず、コンプライアンス意識を持ち続けながら教育活動にあたるために、信頼される学校であるための行動計画を作成し、取り組む必要がある。 ・地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信が求められており、特別支援教育におけるセンター的機能の更なる充実を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症などに対応を含めた緊急時の対応のために、組織力を向上させる必要がある。また、大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。また、危機管理に対する保護者との連携強化に努めるとともに石薬師高校と連携が図られた危機管理マニュアルの整備が必要である。 ・杉の子の本校や関係機関（鈴鹿病院、石薬師高校等）、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校を意識した教育活動を展開し、推進する必要がある。 ・年代や教職経験が様々な教職員が協力し助け合い、働きやすい職場づくりが求められている。また、業務内容の見直しを進め、総勤務時間の縮減に向けた取組を推進していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	(教育課程の整備) ・令和5年度の杉の子本校中学部の石薬師分校移転に向けて、杉の子本校小中学部から石薬師分校へと学びの系統性を視野に入れながら新たな教育課程を編成し、卒業後の生活や地域への社会参画を見通したキャリア教育を推進する。 ・中学部の移転において、生徒が新しい環境にスムーズに慣れるための取組を実施する。 ・地域の社会資源を活用した職業教育の内容の見直しを進める。また、令和4年度の高等部新学習指導要領の本格実施を受け、生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応できるよう、ICT教育も推進しながらつけさせたい力、学ばせたい内容を整理する。 ・作業学習の作業種や班編成を再点検し、カリキュラムマネジメントの考え方を反映し、各教科等の指導内容やその関連性に関して教務を中心に計画的に点検を進めると共に全教職員が共通理解できるように校内研修を進めていく。 (キャリア教育の推進) ・キャリア教育の視点を踏まえ、学習指導要領の教科目標や内容の対応等、日々の学習と校内行事の関連性を再整理した学習活動に取り組む。 ・中学部の石薬師分校移転を見据え、もう一度本校小中学部との系統性も視野に入れながら新たな教育課程を編成し、卒業後の生活や地域への社会参画を見通したキャリア教育を推進する。 (命を大切に教育の推進) ・生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切に教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。
学校運営等	(信頼される学校づくり) ・信頼される学校であるための行動計画に基づき、不祥事の根絶と県民からの信頼回復に向けた組織運営ができるよう、年間を通じた定期的な校内研修等に取り組む。 (教職員の専門性の向上)(センター的機能の充実) ・組織的な実践力・対応力を構築し、専門性や授業力向上のため、研修機会の充実を図る。また、その成果を地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信することで還元し、特別支援教育におけるセンター的機能の充実を図る。 (危機管理体制の強化) ・大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を図る。また、危機管理の取組を保護者と共有し連携を推進することで、特別なニーズのある生徒に対する災害時の支援体制等を一層強化していく。 (保護者や地域との連携) ・杉の子の本校、関係機関(石薬師高校等)、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。 (働きやすい職場づくり) ・働きやすい職場づくりや総勤務時間の縮減や業務の偏りの解消のため、職場内で協力・応援体制がとれるよう、各分掌や委員会、学年集団が業務の精選に努める。その上で、生徒や保護者とのコミュニケーションを大切にし、信頼される学校を目指す。 ・管理職がリーダーシップをとり、いじめや体罰を許さず、相談しやすい職場環境づくり、ハラスメントのない職場づくりに取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
①令和5年度の学校再編に向けた教育課程の整備	①ー(1) 杉の子本校中学部の石薬師分校移転に向けて、小中学部から石薬師分校へと学びの連続性・系統性のある教育課程を編成する。 【活動指標】 ・本校及び分校との教育課程に関する合同の打合せを3回実施 【成果指標】 ・令和5年度の教科書選定までに教育課程を整理	・実施済(6回) ・実施済(連続した学びを意	◎

②系統的なキャリア教育の推進	①－(2) 令和5年度の中学部移転に向けた教育課程において、各教科での打合せ会及び作業学習部会を定期的に持ち、観点別学習状況の評価を位置付けた年間計画を作成する。 【活動指標】 ・各教科の授業担当者会を年3回実施 ・各作業学習部会を年6回実施 【成果指標】 ・観点別学習状況の評価を位置付けた各教科の年間計画を作成した割合100%	識した教育課程を編成) ・実施済(3回) ・実施済(9回) ・達成(国語、数学、音楽、保健体育、美術、職業)	※
	①－(3) 各教科の目標設定と観点別学習状況の評価を明記した指導案をもとに、教職員の理解促進を図る。 【活動指標】 ・指導案をもとにした理解促進を図るための学習会を2回実施 【成果指標】 ・学習会実施後のアンケートにおいて、教職員が観点別学習状況の評価の考え方を理解した割合70%以上	・実施済(2回) 教務部主催 指導主事訪問 ・達成(理解度100%)	◎
	①－(4) 新たに立ち上げた教科「職業」において、地域の社会資源を活用した学習を実践する。 【活動指標】 ・地域企業と連携したデュアルシステム学習を6回実施 【成果指標】 ・実施後のアンケートにおいて生徒の満足度の割合70%以上	・実施済(6回) ・達成(満足度100%)	※
	②－(1) 杉の子本校中学部の石薬師分校移転に向けて、中学部生徒がスムーズに新しい環境に慣れるための取組を行う。 【活動指標】 ・校舎改修後の学校施設見学会を2回以上実施 ②－(2) 生徒の適性や希望に応じた進路実現に向け、担任と各授業担当者とは連携ツールを活用した進路指導を進める。 【活動指標】 ・9月時点における就労希望者全員の就労を実現 ・2年生、1年生において職業チェックリストを実施 【成果指標】 ・3年生において企業就労をした生徒の割合3割 ②－(3) 個別最適な学びを実現するため、タブレット端末等のICT機器を活用した授業実践を行う。	・実施済(5回) ・実現(希望者8名就労) ・実施済(6月、10月) ・未達成(就労率25.8%)	

③命を大切にする教育の推進	【活動指標】 ・一人一台タブレット端末の早期(10月まで)整備 【成果指標】 ・一人一台タブレット端末を含め、ICT機器を活用した授業実践した教職員の割合100% ③－(1) 自主通学の生徒が交通事故や犯罪にまきこまれないよう、通学路安全マップを活用した指導を行う。 【活動指標】 ・自主通学生全員が、危険個所がないかどうかを確認するための通学路安全マップを作成 ・自主通学生に対して通学路安全マップを活用した個別の指導を実施 ③－(2) 生徒がスマートフォンやインターネット上でトラブルに巻き込まれることがないよう、情報モラル学習を行う。 【活動指標】 ・各学年の実情に応じた消費者教育を各学年 年1回実施 ・SNSの危険性について学ぶスマホ教室を年2回実施 【成果指標】 ・スマホ教室実施後のアンケートにおいて、スマートフォンによるトラブルやその解決方法を理解した生徒の割合70%以上 ③－(3) 成年年齢引き下げに伴い、発達段階に応じた主権者教育及び消費生活における正しい知識の習得のための消費者教育を行う。 【活動指標】 ・各学年の実情に応じた主権者教育を実施 年1回ずつ実施 ③－(4) 生徒が命を大切に、いじめや暴力を許さず、相手を思いやる心や個性を認め尊重する態度を育む教育活動に取り組む。 【活動指標】 ・いじめを未然に防ぐための防止学習会を年2回実施 ・学級づくりをねらいとしたスポーツレクリエーション集会を実施 ③－(5) 自分や他者思いやり命の大切さや性に関する正しい知識を身につけ行動できるよう、性に関する指導を進める。 【活動指標】 ・助産師を活用した学習を実施 【成果指標】	・未達成(12月整備) ・達成(100%) ・作成済(対象生徒56名) ・実施済 ・実施済(高2は青少年消費生活講座を実施) ・実施済(3回 情報モラル学習を追加) ・達成(71%) ・実施済(高2は選挙管理委員会と連携) ・実施済(2回) ・実施済(5月) ・実施済(12月)	
----------------------	--	---	--

	・取組後のアンケートで、自分や他者を傷つけず思いやることが大切であると理解できた生徒の割合 70%以上	・達成(94%)	
改善課題			
＜教育課程の整備＞ ○中学部と高等部の教育課程を連続性や系統性の視点で見直し、整理することができた。また、移転により生じる高等部の教育活動の課題を見直し、来年度に向けて整理することができた。 ○観点別評価の学習会を2回実施し、全教職員が観点別評価の理解を深め、個別の指導計画へ反映させることができた。 ●教育課程は、学習指導要領に記載されている各教科で扱うべき指導内容と授業時数の整理についての検討や、教科学習や自立活動の時間の指導の充実に向けた視点での見直しが続く必要がある。 ＜系統的なキャリア教育の推進＞ ○中学部移転に向けた中学部生徒の学校施設見学会の実施や授業体験により、中学部の生徒が新しい環境に慣れ、分校の施設で学ぶことについて見通しをもつことができた。 ○高等部の職業コースにおいて校外体験実習を実施し、取組の成果及び課題を整理することができた。生徒が週に1度、実際に校外に出て働きながら実践的な知識や技能を学ぶ学習に取り組むことができた。試行的ではあったが、生徒は緊張感を持ちながら校外で働く経験を積むことができた。 ●自立と社会参画を目指す教育の充実に向け、キャリア教育プログラムを活用し、小学部段階から高等部までの系統的なキャリア教育を推進する必要がある。高等部では、地域の社会資源を活用した職業教育及び職業コースの充実を引き続き図る必要がある。 ＜命を大切にする教育の推進＞ ○令和4年5月に生徒から生徒に対して、新型コロナウイルス感染症に関する差別発言あった。差別発言に対する課題解決に向けた取組内容及び課題を学校全体で確認し、学年や学級で取組を進めた。必要に応じて生徒との対話を個別に進めたことで、「困った時は先生に相談する」ということが生徒に少しずつ定着してきた。 ○生徒のアンケート調査から生徒同士のSNS等によるLINEトラブルが判明した。生徒がどのようにLINEを利用しているかを可能な限り把握することで、発達段階に応じた学習やスマホ安全教室、情報モラル教育など外部講師による学習を計画的に立案し、取り組むことができた。学習後の生徒のアンケート結果では、「トラブルの解決策として相談する」と答えた生徒の割合は71%で、達成目標をかなり上回った。 ●引き続き、教育活動全体を通じた人権教育の推進が必要である。特に生徒の実践行動ができる力を育む人権教育、具体的には、困ったときには周りの人に相談する力を着実に身につけられるよう、取組をさらに推進する必要がある。			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
①信頼される学校づくり	①－(1) 信頼される学校づくりを進めるため、管理職のリーダーシップのもと「学校信頼向上委員会」を開催し、常に「公の奉仕者」であることを意識できるよう、定期的な研修を行う。 【活動指標】 ・教職員対象コンプライアンス研修を年6回実施 ①－(2) 教職員が発する言動が生徒に与える影響について日頃から意識し、教職員が確かな人権感覚をもった教育活動を実践する。 【活動指標】 ・人権サポートブック等を活用した研修を年2回実施	・実施済(9回) ・実施済(2回)	※

②教職員の専門性の向上	②－(1) 自立活動の実態把握に必要な生徒の実態の見立てや指導仮説をたてるための手法について学ぶ。また、外部専門家を活用し、自立活動における生徒の目標設定、指導内容を確認し、指導助言を受けながら、指導支援を充実させる。 【活動指標】 ・自立活動を意識した生徒の実態についての全体研修会を実施 ・外部専門家(PT・ST)を活用した研修会を年3回実施 【成果指標】 ・全体研修会実施後のアンケートにおいて、研修内容の理解が進んだ教職員の割合70%以上 ②－(2) 一人一台タブレット端末の学習において、実践力を向上させるために端末活用の手法を学ぶ。 【活動指標】 ・端末を効果的に活用する全体研修会を実施 【成果指標】 ・全体研修会実施後のアンケートにおいて、端末活用の理解が進んだ教職員の割合70%以上 ②－(3) 教職員として今日的な様々な人権問題についての理解を深める。 【活動指標】 ・人権教育推進のための全体研修会を実施 ・人権意識調査を実施 【成果指標】 ・全体研修会実施後のアンケートにおいて、研修内容の理解が進んだ教職員の割合70%以上	・実施済(8月) ・実施済(PT2回、ST1回) ・達成(90%) ・実施済 ・達成(100%) ・実施済 ・実施済 ・達成(100%)	
③センター的機能の充実	③ 夏期休業中に開催する公開研修会について、地域の学校へ参加を呼びかけ、地域の特別支援教育を推進する。 【活動指標】 ・自立活動を意識した生徒の実態についての公開研修会を実施 【成果指標】 ・公開研修会実施後のアンケートにおいて、研修内容に満足した参加者の割合70%以上	・実施済(8月) ・達成(100%)	
④危機管理体制の強化	④－(1) 危機を予測した組織的な対応を目指すため、生徒対象に防災ノートを活用した学習を進め、教職員対象とした図上訓練を実施する。 【活動指標】 ・教職員向け下校時災害対応訓練を2回実施 ・防災ノートを活用した防災訓練及び学習を実施 【成果指標】 ・防災学習実施後のアンケートにおいて、日頃から災	・実施済(2回) ・実施済	

	害の意識することの大切さを理解した生徒の割合70%以上 ④－(2) 医療的ケア対象生徒を始めとするすべての生徒について、疾患、特性等を全教職員で共通理解を図り、生徒が安心して学ぶことができる環境を整える。 【活動指標】 ・救急救命訓練を実施 ・医療的ケア対象生徒緊急対応訓練を実施 ・校内安全点検を年3回実施	・達成(90%) 通学路の危険な箇所を理解できた生徒	
⑤保護者や地域との連携	⑤－(1) 学校ホームページや通信の発行など様々な媒体を活用し、積極的に学校の情報を広く保護者や地域へ発信する。 【活動指標】 ・学校ホームページによる情報発信年10回 ・学校での取組内容を保護者へ知らせるための学校通信を年3回発行(いじめ防止学習、スマホ教室、防災防犯学習など) ・保護者に学校での様子を知ってもらうための授業参観を年3回実施 ・PTA活動として工芸班の成果物を用いたタイアップ商品を製作 【成果指標】 ・授業参観後のアンケートにおいて保護者が学校での取組・様子がよく伝わったと回答した割合70%以上 ⑤－(2) 進路指導を進めるうえで、関係機関との連携に努め、近隣の企業や福祉事業所における石薬師分校の取組に対する理解を深める。 【活動指標】 ・学校の特色を理解してもらうためのパートナーシップ会議を実施	・実施済(6月) ・実施済(4月) ・実施済(3回) ・実施済(31回発信) ・実施済(4回) ・実施済(3回) ・製作(さをり製品) ・達成(90%) ・実施済(12月)	◎
⑥働きやすい職場づくり	⑥－(1) 風通しのよい職場づくり、働きやすい職場環境をめざし、年間通じて職場環境や業務についての意見を反映し、職場の改善を行う。また、スクールカウンセラーを活用した教職員のメンタルヘルス対策の取組を行う。 【活動指標】 ・職場の課題などを出し合うオフサイトミーティングを実施 ・スクールカウンセラーを活用し、希望する教職員対象の面談を実施 【成果指標】 ・職員アンケートによる「校務へのやりがい・楽しみ」を感じている教職員の割合80%以上	・実施済(7月) ・実施(8回) ・達成(91%)	※

	⑥－(2)会議の効率化と定時退校日の確実な実施するとともに、職員のワークライフ・バランスを意識した職場作りを行う。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合(年 80%以上) ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合(年 100%) ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合(年 90%以上) 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数(年 0人/39人) ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数(年 0人/39人) ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下(月 35人/39人) ・1人当たりの年間休暇取得日数10日以上(年 39人/39人)	・達成(100%) ・達成(100%) ・達成(90%) ・達成(0人) ・未達成(3人が45時間を超える) ・達成(1人が30時間を超えた) ・達成	
--	---	---	--

改善課題

<信頼される学校づくり>

- 毎月1回、コンプライアンス研修を実施するとともに、研修の内容を「学校信頼向上委員会」において振り返りを行った。保護者の気持ちや生徒理解を促すための研修会では、日々の自分の言動を見直す機会となり、保護者対応において大きな問題へとつながる事案は起きなかった。
- 保護者アンケートにおいて、「お子様は楽しく通っている」の割合は98.0%、また「学校は、保護者の皆様のご意見をしっかりと受け止めて解決しようと努力している」の割合は97.0%と、保護者から一定の信頼はいただいている。しかし、一方で、アンケートにおいて「感染状況が落ち着いたら、外部の来校者も入れ賑やかにしてほしい」、「学校内で教職員間の連携がスムーズではないと感じる」、「保護者の意見を取り入れてほしい」など改善を求める声があった。保護者アンケートの概要を全職員で確認し、現在の教育活動や今後の取組について振り返り検討する場を持った。
- 引き続き、地域や保護者の声に可能な限り寄り添い、特別支援教育の専門性を高め、保護者・地域から「信頼される」学校をめざすための取組を推進する。

<危機管理体制の強化>

- 教職員を対象に、地震を想定とした生徒引き渡し訓練を2回実施した。実践的な研修とすることで、防災に対する意識向上を図ることができた。
- 地域の警察と連携した取組として、「スタントマンによる交通安全教室」を実施し、交通安全教育に取り組んだ。
- 中学部の移転を想定した危機管理マニュアルの見直しや訓練の内容を検討する必要がある。
- 引き続き、生徒が交通事故の当事者とならないよう、交通安全教室及び防犯教育の取組を推進していく必要がある。

<保護者や地域との連携>

- 年3回、学年別に授業参観を実施した。実施後の保護者アンケートでは、「学校での取組・様子がよく伝わった」と回答した割合は90%であった。
- ホームページによる発信は31回、新聞による木材チップ寄贈の報道、地域資源とつながった職業体験実習など、保護者や地域との連携を意識した取組を積み重ねることができた。生徒にとっても学習の内容や成果が見える形となり励みや達成感を味わうよい機会となった。
- 引き続き、地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。

＜働きやすい職場づくり＞

- 夏のオフサイトミーティングでは、自分の業務の進め方を振り返ることができた。また、新たな取り組みとして、石薬師高校とのオフサイトミーティングを実施し、お互いの学校を知る機会となった。
- 会議が勤務時間内で終了できるよう、提案時間の調整を行うなどの工夫をすることで、おおむね時間内に終了することができた。
- 月45時間を超える時間外労働の教職員がのべ3名いた。月平均時間外在校等時間30時間を超えた教職員が1名、30時間に近い教職員が2名いた。4月の新年度準備において前年度の担当者からの引継ぎがスムーズにできなかったこと、情報機器に係る準備の業務が集中したこと、病気休暇取得者の業務が加わったことなどが要因である。また、今年度は通常業務に加え、中学部移転関連の業務が加わり、勤務時間内に仕事を終えることができない状況が確認できた。
- 教員アンケートでは、「学習指導や校務にやりがい、楽しみを感じながら、成果や貢献を実感できている」と答えている教職員の割合は91%で業務に前向きに取り組んでいることが確認できた。一方、「職場は、業務の偏りがある」と感じている教職員が59%で約6割いる。このことから、「教職員個人の業務配分の偏り」については、昨年度からの改善が図られなかった。
- セクハラ、ハラスメントの質問では、働きづらさを感じている教職員がいることを確認できた。
- 時間外労働時間の管理においては、4月の新年度準備に業務が集中する傾向があるため、教職員が担う業務を明確にするとともに分担化を図るなど、1年単位の変形労働時間制の導入も踏まえ、業務の適正化を管理する必要がある。
- 管理職がリーダーシップをとり相談しやすい職場環境づくり、ハラスメントのない職場づくりを進める必要がある。
- 令和5年度は、中学部、高等部の教職員間の連携に加え、石薬師高校との共生を意識した職場づくりを進める必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・鈴鹿亀山地域の特別支援学校として、子どもたちの豊かな学びを保障するために、地域と協働した学校づくりを進める。 ・生徒本人及び保護者に寄り添い、信頼される学校づくりを進める。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・小中高のつながりと教科学習の充実の視点から、教育課程を見直す。 ・子どもたちの自立と社会参画をめざし、系統的なキャリア教育の推進と、高等部の職業教育における企業と連携した校外体験実習の取組を推進する。 ・生徒が自ら周囲の者に相談する力や人権を守るための実践行動をとれるよう、命を大切にする教育を一層推進する。
学校運営についての改善策	・新しい学校体制における生徒及び保護者の不安に寄り添い、安全・安心な学校づくりに取り組む。 ・管理職がリーダーシップを発揮して、業務の偏りを見直し、組織全体で応援体制がとれるよう仕組みづくりを構築する。 ・地域とのつながりを強化し、地域と協働した学校づくりを推進する。